

2023年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年7月14日

上場会社名 and factory株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7035 URL https://andfactory.co.jp/
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 青木 倫治
 問合せ先責任者（役職名） 取締役（氏名） 蓮見 朋樹（TEL）03-6712-7646
 四半期報告書提出予定日 2023年7月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2023年8月期第3四半期の業績（2022年9月1日～2023年5月31日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第3四半期	2,128	3.8	71	154.9	47	—	45	—
2022年8月期第3四半期	2,051	△8.7	28	—	△131	—	△131	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年8月期第3四半期	4.16		4.16					
2022年8月期第3四半期	△13.31		—					

（注）2022年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第3四半期	5,170	1,086	21.0
2022年8月期	4,855	540	11.1

（参考）自己資本 2023年8月期第3四半期 1,086百万円 2022年8月期 540百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年8月期	—	0.00	—	—	—
2023年8月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の業績予想（2022年9月1日～2023年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,940	3.8	130	96.7	97	—	73	—	6.71

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正については、本日（2023年7月14日）公表いたしました「2023年8月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年 8 月期 3 Q	11,261,970株	2022年 8 月期	9,853,520株
----------------	-------------	------------	------------

② 期末自己株式数

2023年 8 月期 3 Q	257株	2022年 8 月期	257株
----------------	------	------------	------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年 8 月期 3 Q	10,900,572株	2022年 8 月期 3 Q	9,850,071株
----------------	-------------	----------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 4 ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社の主要な事業領域である電子書籍市場については、2020年度の市場規模は4,821億円であり、そのうちコミックが占める割合は83.0%、2021年度の市場規模は5,510億円と前年度から14.3%増加し、そのうちコミックが占める割合も84.6%の4,660億円と増加していることから、近年コミック市場の規模は拡大傾向にあるといえます。

また、2026年度には電子書籍市場は2021年度の約1.5倍の8,048億円に拡大すると予想されていることから、当社としては今後も市場拡大のトレンドは継続していくと見込んでおります。

(インプレス総合研究所の「電子書籍ビジネス調査報告書2022」より)

このような経営環境の中、当社は、「日常に&を届ける」をミッションとして掲げ、中核事業となるAPP事業において、主に大手出版社と共同開発したスマートフォン向けのマンガアプリの収益拡大に注力してまいりました。

APP事業において、主力事業であるマンガアプリ事業では広告市況の悪化に伴い広告ARPU(注1)が低下したため広告収益が減少しましたが、課金率の高いアプリが好調に推移したことや人気作品の牽引によって課金売上が増加いたしました。エンタメ事業では古い事業が好調に推移し、APP事業全体では、売上高、営業利益とも前年同期を上回って着地いたしました。

RET事業において、入国規制の緩和により外国籍の宿泊者数が増加傾向にあることで&AND HOSTELの稼働率は徐々に回復傾向にあり、平均単価についてはコロナ禍以前の水準にまで回復しております。一方、前年同期には一時的なコンサルティング収入を計上したため前年同期と比較して売上高、営業利益ともに減少いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は2,128,912千円(前年同期比3.8%増)、営業利益71,812千円(前年同期比154.9%増)、経常利益47,668千円(前年同期は経常損失131,042千円)、四半期純利益45,308千円(前年同期は四半期純損失131,090千円)となりました。

① APP事業

当第3四半期累計期間において、出版社や株式会社アムタスと協業で運営している7つのマンガアプリについて、効率的な広告宣伝費の投下やキャンペーンを積極的に実施したことが奏功し新規ユーザーの獲得が好調に推移しました。さらに、既存ユーザーの継続を促す施策等を実施したことでユーザーが定着し、MAU(注2)は高水準を維持しております。

新型コロナウイルス感染症の影響による広告市況全体の悪化等が影響し、広告ARPU(注1)が下降傾向にあり広告収益が減少いたしました。人気コンテンツの掲載や課金率の高い作品の牽引によって課金売上は増加しました。

この結果、当第3四半期累計期間におけるAPP事業の売上高は2,088,868千円(前年同期比8.0%増)、セグメント利益は368,365千円(前年同期比6.8%増)となりました。

(注) 1. Average Revenue Per Userの略称であり、ユーザー一人当たりの収益単価であります。

2. Monthly Active Userの略称であり、1ヶ月に一度でもアプリを利用したユーザーの数を指します。

当社のAPP事業において運営するスマートフォンアプリのうち、「マンガアプリ」の四半期毎の平均MAU数の推移は下表のとおりであります。

(単位：万人)

年月	平均MAU数	年月	平均MAU数
2017年5月末	31	2020年8月末	994
2017年8月末	65	2020年11月末	1,026
2017年11月末	108	2021年2月末	1,054
2018年2月末	150	2021年5月末	1,056
2018年5月末	204	2021年8月末	1,101
2018年8月末	238	2021年11月末	1,046
2018年11月末	279	2022年2月末	1,044
2019年2月末	362	2022年5月末	1,121
2019年5月末	430	2022年8月末	1,152
2019年8月末	532	2022年11月末	1,129
2019年11月末	641	2023年2月末	1,105
2020年2月末	720	2023年5月末	1,140
2020年5月末	906		

(注) 上記の平均MAU数は、各四半期における平均値を記載しております。

② RET事業

当第3四半期累計期間において、当社が運営する宿泊施設である「&AND HOSTEL」では、入国規制の緩和の影響等もあり、外国籍の宿泊者からの予約が増加し各店舗で稼働率及び平均単価が回復基調となりました。また、一部店舗における契約見直しを実施した結果、当社が収受する売上高及び負担費用が圧縮されました。

不動産関連売上及びその他収益は、当第3四半期累計期間において一部賃貸借契約が終了したことにより不動産賃貸収入が減少したことに加え、前年同期にはコンサルティング収入がスポットで発生したため、前年同期と比較すると売上高、営業利益が減少いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間におけるRET事業の売上高は40,044千円（前年同期比64.2%減）、セグメント損失は50,732千円（前年同期はセグメント損失36,477千円）となりました。

③ その他事業

前事業年度までは、他のセグメントに属さない新技術等を用いたエンターテインメント領域の企画検討等を実施しておりましたが、収益確保が見込めないため当事業年度においては継続しないことと判断いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間におけるその他事業の売上高は0千円（前年同期比100.0%減）、セグメント利益は374千円（前年同期はセグメント損失20,430千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は5,170,660千円となり、前事業年度末に比べ315,262千円増加いたしました。これは主に敷金及び保証金が197,415千円、売掛金が21,466千円減少した一方で、現金及び預金が443,387千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は4,084,356千円となり、前事業年度末に比べ230,046千円減少いたしました。これは主に短期借入金が45,000千円減少したこと及び、解約損失引当金が179,534千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は1,086,304千円となり、前事業年度末に比べ545,308千円増加いたしました。これは主に、四半期純利益の計上により利益剰余金が45,308千円、第三者割当増資により資本金が249,999千円、資本剰余金が249,999千円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は21.0%（前事業年度末は11.1%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年10月14日に公表した通期業績予想の数値を修正しております。詳細につきましては、本日（2023年7月14日）公表の「2023年8月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	479,131	922,519
売掛金	524,777	503,310
仕掛品	-	19,356
販売用不動産	3,118,940	3,109,620
立替金	196,779	178,563
その他	37,932	139,133
貸倒引当金	△12,347	△22,753
流動資産合計	4,345,213	4,849,750
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,640	11,640
工具、器具及び備品	64,646	68,816
減価償却累計額	△46,546	△53,419
有形固定資産合計	29,740	27,037
無形固定資産		
ソフトウェア	55,317	64,091
ソフトウェア仮勘定	18,375	19,330
無形固定資産合計	73,692	83,422
投資その他の資産		
投資有価証券	165,607	165,607
敷金及び保証金	237,773	40,358
その他	3,369	4,484
投資その他の資産合計	406,750	210,450
固定資産合計	510,184	320,909
資産合計	4,855,398	5,170,660

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,073	98,091
短期借入金	265,000	220,000
1年内返済予定の長期借入金	277,136	277,136
未払金	514,051	528,791
未払法人税等	13,051	5,856
賞与引当金	304	-
株主優待引当金	36,464	8,193
解約損失引当金	179,534	-
預り金	8,312	6,794
その他	36,723	41,052
流動負債合計	1,430,651	1,185,915
固定負債		
長期借入金	2,877,206	2,894,354
長期預り保証金	6,545	100
長期末払金	-	3,986
固定負債合計	2,883,751	2,898,440
負債合計	4,314,402	4,084,356
純資産の部		
株主資本		
資本金	551,819	801,818
資本剰余金	550,460	800,460
利益剰余金	△560,710	△515,401
自己株式	△572	△572
株主資本合計	540,995	1,086,304
純資産合計	540,995	1,086,304
負債純資産合計	4,855,398	5,170,660

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
売上高	2,051,474	2,128,912
売上原価	903,057	889,619
売上総利益	1,148,417	1,239,293
販売費及び一般管理費	1,120,248	1,167,480
営業利益	28,168	71,812
営業外収益		
受取利息	4	8
補助金収入	893	3,065
その他	240	6
営業外収益合計	1,138	3,081
営業外費用		
支払利息	22,632	23,778
株式交付費	-	2,288
地代家賃	129,869	-
その他	7,848	1,158
営業外費用合計	160,350	27,224
経常利益又は経常損失(△)	△131,042	47,668
特別利益		
事業譲渡益	0	-
固定資産売却益	-	227
投資有価証券売却益	10,020	-
特別利益合計	10,020	227
特別損失		
減損損失	964	-
固定資産除却損	1,269	0
投資有価証券評価損	4,999	-
特別損失合計	7,233	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△128,256	47,895
法人税等	2,834	2,586
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△131,090	45,308

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

当社は、2022年11月10日付で、株式会社セブテーニ・ホールディングスから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金が249,999千円、資本準備金が249,999千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が801,818千円、資本剰余金が800,460千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響について、行動制限の緩和・インバウンドの回復傾向にあるものの、経済への影響は継続しており、当社の事業活動にも影響を及ぼしております。広告市況の悪化に伴うマンガアプリの広告収益の縮小となった一方、当社が運営する「&AND HOSTEL」における稼働率や顧客単価は新型コロナウイルス感染症拡大の影響前まで回復をしておりますが、今後の生活様式の変化への対応又は新型コロナウイルス感染症再拡大の恐れ等、予測困難な状況に変わりはなく業績への影響を及ぼす可能性があります。依然として収束時期等を予測することは困難な状況にあり、販売用不動産の評価、固定資産に関する減損損失の計上要否の判断及び繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行うにあたっては、財務諸表作成時に入手可能な情報に基づき、2023年8月期以降は段階的に縮小するものと仮定し、会計上の見積りを行っております。

なお、現時点での収束時期を正確に見積ることは困難であることから、上記の仮定に変化が生じた場合には将来における財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	APP事業	RET事業	計		
売上高					
マンガ	1,618,621	—	1,618,621	—	1,618,621
占い	276,359	—	276,359	—	276,359
&AND HOSTEL	—	27,169	27,169	—	27,169
不動産関連	—	26,441	26,441	—	26,441
その他	39,145	1,893	41,039	5,635	46,674
顧客との契約から生じる収益	1,934,126	55,504	1,989,630	5,635	1,995,266
その他の収益	—	56,208	56,208	—	56,208
外部顧客への売上高	1,934,126	111,712	2,045,838	5,635	2,051,474
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,934,126	111,712	2,045,838	5,635	2,051,474
セグメント利益又は損失(△)	344,972	△36,477	308,494	△20,430	288,063

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新技術等を用いたエンターテインメント領域に係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	308,494
「その他」の区分の損失(△)	△20,430
全社費用(注)	△259,895
四半期損益計算書の営業利益	28,168

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	APP事業	RET事業	計		
売上高					
マンガ	1,641,190	—	1,641,190	—	1,641,190
占い	421,774	—	421,774	—	421,774
&AND HOSTEL	—	4,420	4,420	—	4,420
不動産関連	—	10,630	10,630	—	10,630
その他	25,903	867	26,770	—	26,770
顧客との契約から生じる収益	2,088,868	15,917	2,104,785	—	2,104,785
その他の収益	—	24,127	24,127	—	24,127
外部顧客への売上高	2,088,868	40,044	2,128,912	—	2,128,912
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,088,868	40,044	2,128,912	—	2,128,912
セグメント利益又は損失(△)	368,365	△50,732	317,633	374	318,007

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新技術等を用いたエンターテイメント領域に係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	317,633
「その他」の区分の利益	374
全社費用(注)	△246,195
四半期損益計算書の営業利益	71,812

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。